

## 対談

# 国立劇場おきなわ嘉数芸術監督に聞く 組踊の魅力とは

開場10周年を迎えた「国立劇場おきなわ」の芸術監督嘉数道彦さんに組踊の魅力語ってもらいました。

○**田中財務部長** 組踊の独自性や歌舞伎、能、狂言、文楽などの本土伝統芸能と組踊の関係性についてお聞かせください。

○**嘉数芸術監督** 組踊は「琉球版オペラ」「琉球版ミュージカル」と言っても過言ではないかと思っています。琉球王国時代に来流する中国皇帝の使者・冊封使を歓待するために創作された琉球独自の歌舞劇です。琉球王国という小さな島国が、いかに賓客を歓待するか知恵を絞った結晶が組踊です。

本来、沖縄の人に見せる意識はなく、外交戦略としてつくられた作品群で、当時の踊奉行、玉城朝薫によって創始されました。踊奉行という役職が設置されるほど国家として芸能を重視した外交を行っていたのです。

組踊は琉球の総合芸術とも言われ、せりふ・音楽・踊りの3つの要素から

成り立っています。せりふは琉球の言葉、音楽は琉球古典音楽、踊りも琉球独自の所作で、リアルな演劇ではなく、様式を重視したスタイルです。当時の琉球の人々は中国にとどまらず日本本土にも出向き、歌舞伎や能、狂言、音楽を始め、様々なことを学び独自のスタイルを確立しました。玉城朝薫自身も芸能に秀でた人物で、各方面から影響を受けていました。組踊のせりふは琉球語ですが、首里の教養人が作るわけですから意外と和語、大和言葉が取り入れられています。

○**田中** 言語が大きく異なる中国人にはどう伝えたのでしょうか。

○**嘉数** 今という鑑賞ガイド、中国語の解説書があったと聞いています。現代人の感覚では、中国語で演じれば尚良かったのではと考えたりもしますが、そこは琉球の言語を大切にして創作したのです。中国人が喜ぶ獅子舞や音楽など中国風の芸能が、組踊とは別の演目で披露されたりしています。一方、

琉球には誇るべき独自文化があるという自負のもと、組踊を他国の芸能の単なるまねごとの芸にはしていない点の特徴かと思っています。

○**田中** 古典作品の魅力、演出方法などを聞かせてください。

○**嘉数** 古典作品は、ドラマ性に富んだストーリーで成立しています。いずれも沖縄各地に伝わる民話や伝説などを素材に、国家戦略と言えましようか、我々琉球の方針はこうだという点を透かせてみせる点が組踊の独自性です。

例えば、「執心鐘入」は、女性との恋を断ち切って勤めに行く首里奉公、国家に奉じる若者の精神性を奨励する内容です。また、恋狂いして鬼と化した娘を戒めるのは、寺の座主一行の念仏・経文であり、信仰の力による救いに重きを置いた内容となっています。国家の方針、琉球王国の考えは儒教道徳を尊重していますというテーマで、外交アピールしているのです。

今風に考えると、「銘苅子」は正直、

### か 嘉数 道彦 氏のプロフィール

1979年生れ。宮城流能里乃会教師。初代宮城能造・宮城能里に師事。沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修士課程修了。在学中より多くの新作組踊作品の創作・脚本・演出を手がける。同大非常勤講師を経て、2013年より国立劇場おきなわ芸術監督兼企画制作課長に就任。



写真提供：国立劇場おきなわ

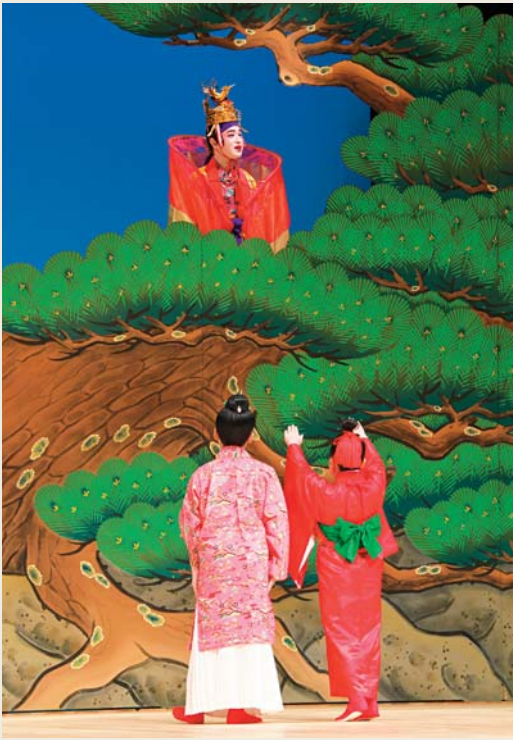


理解しづらい内容です。いわゆる天女伝説で、子供を残し天女が帰ってしまった悲しい場面に、首里王府から迎える使者が来て、残された父と子を王府で取り立ててあげましょうという場面があります。いくら褒美を貰っても悲しい結末は悲しいものと思うのですが、琉球の国王はそれだけ庶民に慈悲深く



「執心鐘入」

写真提供：国立劇場おきなわ



「銘苅子」

写真提供：国立劇場おきなわ

ぶという課題があつて、子供に組踊をどう教えようかと思つたわけです。古典作品を通して組踊の魅力を子供たちへ伝えることは厳しいと思ひ、悩んだ結果、子供向けの新作を考える手法を

対応しますと言わんばかりの内容に仕立てられています。そういう歴史的背景やテーマ、思いが込められている点が古典作品の特徴です。古典作品の演出では、伝統として伝えられてきたものを正確に表現することを最大限重視し、新たな演出は避けています。

○田中 幼い頃、祖母に連れられて、沖縄芝居を見物されることが大好きだったと聞きます。

○嘉数 小さい頃から沖縄芝居と琉球舞踊は大好きでしたが、組踊は沖縄県立芸術大学に入学して本格的に学びました。実は初めは組踊が好きではありませんでした。

大学の授業で、やらざるを得ない形でスタートしましたが、始めてみると、すぐにその魅力に取りつかれて、もっと学びたい想いが強くなりました。大学院では子供向けに組踊ワークショップという課題があつて、子供に組踊をどう教えようかと思つたわけです。古典作品を通して組踊の魅力を子供たちへ伝えることは厳しいと思ひ、悩んだ結果、子供向けの新作を考える手法を

選びました。そして題材には、子供たちに親しみのある絵本の「スイミー」、そのストーリーを組踊版にしてはどうかと考えたのです。

○田中 嘉数さん自身が精力的に新作を作り演出もなさいます。また、芥川賞作家の大城立裕さんも多くの新作に意欲的に取り組んでいますね。

○嘉数 大城先生は二十数番を書かれています。いずれも素晴らしい作品ばかりです。私が新作を始めたきっかけは、子供たちはもちろん、自分と同世代の客層が明らかに少ない中で、組踊の魅力をどうやって伝えたいのか、なとを考え、普及という面から新しい作品が誕生してもいいじゃないかという想いからでした。新作を入口に、最後は、古典作品にたどり着いてほしいことが一番の願いです。

新作を見て、お褒めの言葉を頂くと嬉しい反面、次に古典作品を見た時に、「これはおもしろくないや。新作のほうがよかった。」とならないか不安なものです。新作でどこまでお客様に近寄り、かつ、その次に古典作品をどれだけ楽しんでいたか、という点で悩み、葛藤します。

○田中 新作の所作、足の運びなどは古典作品と同じなのです。

○嘉数 基本は同じです。言葉も琉球の言葉で、演奏も全て三線、琴、太鼓などの伝統的な楽器を使用しますが、

そこに新しい楽曲や、子供や初心者に興味を引くため、多少工夫は致します。

○田中 芸大入学当初は、組踊のおもしろさを感じられなかったという話ですが、組踊の魅力に目覚めた何かがあったのでしょうか。

○嘉数 稽古を積み、舞台を踏んでいく上で理解してきたのですが、最初はどうしても様式がわからず、役者が動かぬまま長い歌だけが続き退屈だな、というのが正直な感想でした。しかし、歌詞の内容を理解し、自分の気持ちで共感すると、曲、歌詞と演技とが一致する瞬間があります。その時に、リアルな沖縄芝居とは違ったその様式美の世界に引き込まれて、こんな世界観があるんだと深く感じる点がありました。

○田中 観客は年齢層が高いと聞きます。すそ野を広げる方策はありますか。

○嘉数 普及公演が年に4回あります。数にして10ステージ。地道な普及活動が重要で、解説等を交えての鑑賞や、親しみやすい新作作品の鑑賞もあります。試行錯誤しつつ普及のためにどの方向がいいのかを模索しています。

○田中 屋外のステージで桃太郎をテーマにした組踊をみました。確か県立芸大の学生さん達が演じていました。子供にもわかる楽しい内容でした。

○嘉数 あれは実は私の作品でした。

○田中 えっ、そうなんですか。

○嘉数 そういった普及活動、劇場外

の活動にもいろいろと取り組んでいます。県立芸大のOB会や、当劇場の組踊研修修了生を中心とした団体などが、普及的な取り組みにも大変力を入れていきます。劇場での活動に限らず、いろんな形で普及活動が展開できたらいいかなと思います。

一方で、客席が満席で、お客さんが楽しければ大成功という話でもありません。観客が少なくても、守っていかねければならないものがあります。普及活動と伝統の継承が並行しつつ、多くの観客に喜んで頂ける舞台が創り上げられたらと思います。

加えて、観客の育成も重要です。舞台上の演者だけが上達してもいい舞台はできないものです。しっかり見て下さる観客がいて、厳しい批判、意見、感想を述べる見巧者がいなければ、舞台の質は向上しません。舞台で演じる側と客席との一体感、共鳴がないと本物の芸能だとは言えないかと思っています。その面で現在重要な点は、観客席の若い世代、子供たちに、舞台や芸能がより近い存在として感じてもらえるような環境づくりをすることかと思っています。

私個人的には、新作だけに力を尽くすことは実は悲しく感じるところです。観客が古典作品だけで十分に満足してくれる時代だったらなんと正直思うこともあります。

○田中 沖縄の芸能は、例えば民謡なんかでも、古典的な民謡以外に新たに派生したものが次々出てくる。そういう意味では本土にない世界ですね。本土では、民謡と言えればおじいちゃんおばあちゃんがやっているような感じですけど、沖縄の場合は若い人でも民謡と距離感がない。

○嘉数 芸能が生きている証拠だと思っています。生きているからこそ、新しいものが誕生する、変化していく。芸能が身近にあつて生活に浸透していて県民とかけ離れた存在では決していない。時代に合わせて変化していく点も、実はとてもすごい沖縄の芸能の魅力かと思っています。

片や、変化しないものもある。継承と創造が両輪のようによく言いますけど、一緒になって進んでいければ一番いい形で今後もつながっていくのかなと思っています。

○田中 沖縄総合事務局としては経済面にも注目したいのですが、観光業界から組踊への期待がある。例えば、常設公演を求める声が聞こえてきます。観光業界との連携なり、何かお考えがあれば教えていただけますか。

○嘉数 最近、文化観光というキーワードをよく耳にします。組踊の若手実演家は大半、昼間は別の仕事をしていて、夜、舞台に向けて稽古をしています。舞台だけで生活が出来たらという思い

は、もちろんあります。常設公演の舞台ができて、安定的に観客からの需要があればよいことだと思います。商業的には、県外から来たお客様が組踊をみたいとなれば、ありがたい話ではあります。一方で、組踊は単なる舞台芸能だけではなく、各演者の修行の間でもあるので、商業的に毎日見せて収入を期待することには抵抗も覚えます。

形や目に見えるものだけでなく、実はそこが本当は一番変化してはいけない点ではないかと思っています。観光資源として組踊が期待される事はありがたいのですが、仮に観光に特化した常設の組踊を毎日やるとなった場合には、相当な覚悟が必要です。演じ手としても、舞台が収入源になることで失われる面も無いとは言えず、慎重かつ個々の芸に対しての意識を高めて臨まなければならない事だと思います。

○田中 経済性だけでは割り切れない難しい問題がありそうですね。

○嘉数 玉三郎さんが、「私がなぜ組踊の美しさに魅かれるかというと、商業主義ではない様式美を感じるからだ。」とおっしゃっていました。やっぱり宮廷芸能である点が組踊の重要なことのひとつでしょう。だからといって頑なに守って、身を削ってやるものなのか、おもしろいという人はいなくてもいいのか、というところではないのか、というのが、その葛藤をいつも実演家は

持っています。

○田中 作品によっては狂言に近い部分もある。「執心鐘入」でも小僧のコミカルな感じの演技があります。本来、組踊にはそれはあまりない要素でしようか。

○嘉数 一部に愛きょうのある場面があったりしますが、従来の古典作品に純粹な喜劇性はないですね。「執心鐘入」の小僧のコミカルな場面も、本来最初からあったものなのか、宮廷内で演じられていた組踊が、明治になって庶民の元において商業的になっていくときに、追加された場面だという意見もあります。最近では、本来の姿に戻そうという動きもあつたりして、愛きょうある場面を省いて上演する試みもされています。

○田中 組踊の演出台本はないのですか。

○嘉数 台本はありますが、所作までは細かく記されていないですね。だから、小僧が兄弟子二人の頭を打つなど、演技方法まで書いてはありません。現在伝承されてきている型が主に劇場で上演されていますが、その起源、型の変化など不明な点も多くあります。

○田中 衣装についてはどうですか。

○嘉数 衣装もまだまだ研究するところがいっぱいです。今、継承されているものは、先生方が戦後に苦心して復元して受け継いできた形なんです。実



際に文献等に残っている衣装の研究、検証はこれからも続きます。

○田中 組踊の未来についてお聞かせいただければと思います。

○嘉数 何より明るい未来であってほしいです。多くの県民の方々が、組踊を沖縄の財産だと誇りに思っていてほしいし、そのよさをまず理解してもらわないことには誇りも生まれませんので、本当に多くの方に見ていただいて納得して頂きたい。ただそれは簡単なことではなくて、僕も最初は踊りをやっていて、沖縄芝居は好きでも、組踊に興味がなかったわけです。一度二度見たぐらいでは誇りが持てるものでもありません。より理解しやすい形、環境づくりということも必要でしょう。楽



組踊版「スイミー」

写真提供：国立劇場おきなわ

しんでいただく中でも、王朝時代から琉球の人たちがしたたかにつくり上げてきた舞台であると同時に、先人たちの精神が込められた芸能です。伝統は今後もしっかりと大切にしていきたいと思います。継承しながら発展し



「二童敵討」

写真提供：国立劇場おきなわ

ていくという面では新しい作品づくりがあります。生きた芸能としての動きを大切にしたいですね。

○田中 ブログでは息子さん二人が紹介されています。将来、成人後に組踊をやっているとしたら素晴らしいですね。

○嘉数 僕は沖縄芝居ごっこでしたが、息子たちは組踊ごっこをしています。

○田中 組踊の練習風景を近くで見ているわけですね。そういう子供たちがが増えてくると組踊の未来も安泰ですね。

○嘉数 小さいときから親しめば、子供でもより内容や様式を理解することができ、出演する多くの子役たちは組踊が大好きなんですね。大学でやっと好きになった僕には考えにくい。芝居より組踊が断然好きだという実演家の卵たちが、国立劇場

## 国立劇場おきなわ 5～8月の公演予定

5月10日(土)	研究公演「村々に伝わる組踊」
5月22日(木)～24日(土)	新作組踊「聞得大君誕生」 ※チケット完売
5月31日(土)	琉球舞踊「八重山の踊り」 ぶどう
6月14日(土)	三線音楽・三味線音楽
6月28日(土)	社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」
7月12日(土)	沖縄本島民俗芸能祭(八重瀬町)
7月26日(土)	組踊「月の豊田」
8月 3日(日)	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」
8月16日(土)	琉球舞踊「男性舞踊家の会」
8月24日(日)	組踊「伏山敵討」

の舞台に子役として上がり、時には客席で楽しそうに鑑賞しています。あれを見たら、組踊の未来はとても明るいなと思いますね。

○田中 本日はお忙しいところ、どうもありがとうございます。

○嘉数 ありがとうございます。

※国立劇場おきなわの周辺整備事業に、沖縄総合事務局財務部が融資した財投資金が活用されています。